

行事予定

10月

- 11日 (金) 第42回薬師祭 (13日まで)
第37回スタッフ育成・管理担当者研修会 (12日まで)
- 13日 (日) ソフトボール大会 (さいたま医療センター)
- 17日 (木) 自治医科大学国際シンポジウム The 10th Nikko International Symposium 2013
診療代表者会議
- 18日 (金) 学内ボウリング大会
- 22日 (火) 総合防災避難訓練
- 23日 (水) 診療保険委員会
- 24日 (木) 医学部教授会・教授総会
看護学部教授会・教授総会
医療安全・感染対策合同講演会
第392回現地研修会 (群馬県高崎市)
- 25日 (金) 個人情報保護に関する講演会
- 26日 (土) 地域医療を守り・育てる住民活動全国シンポジウム (27日まで)

11月

- 1日 (金) 個人情報保護に関する講演会 (さいたま医療センター)
- 2日 (土) 健康福祉プランナー養成塾 (アドバンストコース) (4日まで)
- 7日 (木) 入試事務担当者会議
第393回現地研修会 (茨城県古河市)
- 9日 (土) 第394回現地研修会 (岐阜県郡上市)

お知らせ

医療現場の課題・ニーズ研究会が開催されました

研究支援課

9月11日(水)午後1時15分から、地域医療情報研修センター中講堂において、首都圏北部地域産業活性化協議会(茨城県、栃木県、群馬県、(株)ひたちなかテクノセンター、栃木県産業振興センター)主催の医療現場の課題・ニーズ研究会が開催されました。

これは、栃木県産業振興センターを事務局とした協議会で、北関東3県における産学官ネットワークの強化と中小企業の医療機器産業への参入を促進することを目的としております。

当日は、総数43名の参加があり、栃木県産業振興センターから清水勇総合支援部長、本学から松岡研究管理委員長の挨拶があり、次いで経済産業省関東経済局の高崎宏和次世代産業課ヘルスケア産業室長、浜松医科大学の山本清二産学官共同研究センター長による講演がありました。

休憩をはさんで、5名の教職員(アレルギー膠原病学・岩本准教授、7B病棟・高久師長、脳神経外科学・五味学内教授、とちぎ子ども医療センター2B病棟・下田師長、整形外科学・関矢准教授)から、それぞれ本学に関連するニーズ紹介の講演が行われ、本学教員と参加企業との情報交換が行われました。

ご協力いただきました関係各位にお礼申し上げます。



松岡研究管理委員長



経済産業省 関東経済局・
高崎宏和次世代産業課
ヘルスケア産業室長



浜松医科大学・山本清二産学官
共同研究センター長



7B病棟・高久師長



整形外科学・関矢准教授

お知らせ

第12回自治医科大学シンポジウムが開催されました 自治医科大学シンポジウム委員会・学事課

9月5日(木) 13時10分から、地域医療情報研修センターにおいて、自治医科大学シンポジウム委員会主催による「第12回自治医科大学シンポジウム」が開催されました。今年度は、「研究を軸に学内の研究者が盛り上げられる機会をつくる」というシンポジウムの目的に立ち返り、JMUシンポジウム講演とポスターセッションの二本立て構成で開催しました。

最初に市村副学長から開会挨拶があり、引き続き、中講堂でJMUシンポジウム講演が行われました。この模様は、さいたま医療センター南館講堂にも映像配信を行いました。

講演は5題で、次の先生方がそれぞれの研究の成果や現状を発表されました。



今野教授
(総合医学第2)



出崎准教授
(統合生理学部門)



菊池准教授
(幹細胞制御研究部)



門田講師
(小児科学)



千葉講師
(精神看護学)

また、ポスターセッションは56題の応募があり、医学部及び看護学部の教職員、大学院生などが活発な意見交換を行いました。研究奨励金受賞者を除くポスターセッション発表者の中から、グループ毎に優秀ポスター賞が選ばれ、春山看護学部長から賞状と副賞が贈呈されました。

当日は教職員など約200名の参加者があり、発表者の研究内容に熱心に耳を傾けていました。

シンポジウム開催に際し、ご協力、ご支援くださいました関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。



【優秀ポスター賞受賞者名】

統合生理学部門
小児科学
メディカルシミュレーションセンター
さいたま・循環器科
母性看護学
地域看護学

修士課程2年
博士課程4年
助教
臨床助教
博士前期課程1年
助教

佐久間和哉
松本 歩
浅田 義和
藤原 隆行
望月 明見
島田 裕子 (敬称略)

お知らせ

「第4回自治医科大学顧問指導・学外卒後指導委員合同会議」が開催されました

地域医療推進課

9月14日(土) 東京秋葉原コンベンションホールにおいて、第4回自治医科大学顧問指導・学外卒後指導委員合同会議が開催されました。

今回は「専門医制度へのアプローチ」をテーマとし、講演者3名、顧問指導委員24名、学外卒後指導委員29名、また大学からは永井学長、市村副学長、谷口卒後指導委員長、針田卒後指導部長、西浦大学事務部長等42名の計98名が出席しました。

会議は、永井学長の挨拶、谷口卒後指導委員長の趣旨説明のあと、池田康夫日本専門医制評価・認定機構理事長、宮崎俊一日本内科学会専門医部会会長、前野哲博日本プライマリ・ケア連合学会副理事長の3名の講師それぞれの立場から、専門医制度の現状や今後の構想について講演がありました。

その後、掲げられたテーマ毎にグループディスカッションが行われ、最後に谷口卒後指導委員長、三瀬地域医療学センター准教授が座長となり、グループ毎の発表、意見交換が行われました。



お知らせ

「地域医療フォーラム2013」が開催されました

地域医療推進課

9月15日(日)、東京秋葉原コンベンションホールにおいて、『新しい地域医療の実践～提言された鍵を生かす～』をテーマに、「地域医療フォーラム2013」が開催されました。

全国各地から、行政関係者、教育関係者、各地の病院に勤務する先生方、さらには住民の方々など総勢271名の参加がありました。一昨年の『フォーラム宣言』、昨年の宣言を実現する『鍵』となる具体的方策の検討を踏まえ、今年はより実践的で他でも応用可能な新しい地域医療の『モデル』を創出することを目的とし、小山市の協力を得て同地区の地域医療についてより実行性の高い建設的議論を行いました。まとめの全体会Ⅱでは4つの分科会の議論をもとにステージとフロアが一体となった活発な議論が行われ、参加者各自が「提言された鍵」の活かし方をそれぞれの地域に持ち帰ることができました。総務省、厚生労働省を始めとし、ご後援をいただいた多くの機関・団体の皆様、そしてご支援をいただきました関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

【開会挨拶】 永井良三(自治医科大学学長)

【全体会Ⅰ】「フォーラム宣言モデルの取り組み例報告」(小山市)

コーディネーター 梶井 英治(自治医科大学地域医療学センター長)

〈事例発表〉

- ①フォーラム実行委員から 安田 是和(自治医科大学附属病院長)
- ②行政から 猿山 悦子(小山市健康増進課緑の健康づくりの森推進室長)
- ③医育大学から 市村 恵一(自治医科大学副学長)
- ④医師会・診療所から 塚田 錦治(一般社団法人小山地区医師会副会長)
- ⑤拠点病院から 島田 和幸(地方独立行政法人新小山市市民病院理事長)
- ⑥住民から 舘野紀久平(小山の医療を考える市民会議)

【分科会】「フォーラム宣言」モデルの創出

第1分科会「行政からのアプローチ」

〈座長〉藤本 幸男(青森県健康福祉部次長)

大嶽 浩司(昭和大学麻酔科学講座主任教授)

第2分科会「医育大学からのアプローチ」

〈座長〉前田 隆浩(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科社会医療科学講座地域医療学分野教授)

井口清太郎(新潟大学大学院医歯学総合研究科総合地域医療学講座特任教授)

第3分科会「医師会・診療所からのアプローチ」

〈座長〉内田 健夫(医療法人社団内田医院理事長)

浅井 秀実(一般社団法人小山地区医師会理事、栃木県小児科医会会長)

第4分科会「拠点病院からのアプローチ」

〈座長〉内籾 和世(京都市立病院長)

望月 泉(岩手県立中央病院長)

【全体会Ⅱ】 分科会報告、全員参加型ディスカッション

コーディネーター 梶井 英治 (自治医科大学地域医療学センター長)

コメンテーター 梶尾 雅宏 (厚生労働省医政局指導課長)

【閉会挨拶】 前田 隆浩 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科社会医療科学講座地域医療学分野教授)



お知らせ

平成25年度自治医科大学看護学部臨地実習指導研修会が開催されました

看護総務課

平成25年度自治医科大学看護学部臨地実習指導研修会が、9月3日(火)、4日(水)に看護学部において、附属病院をはじめ、学外の実習施設より計75名のご参加をいただき、開催されました。本研修会は、本学看護学部の教育の理念を踏まえつつ、臨地実習の場において教員と臨地実習指導者とが協力し、一貫した指導を提供できることを目的として毎年行われるものです。

研修会1日目の午前は、春山学部長の挨拶後、成田教務委員長から「看護学部のカリキュラム及び臨地実習の概要」、大塚教授から「本学学生への理解」、永井教授から「臨地実習の場におけるコミュニケーション」について講義がありました。午後はワールド・カフェというグループワークを行いました。これは1グループ6人を限度に編成されたグループ内でテーマに沿って自由に話し合い、メンバーの組み合わせを変えながら、意見を出し合うというものです。今回は4回組み合わせを変え、グループで話し合い、他のグループでの意見交換や気づきの中から得られた内容を全体でシェアしながら検討しました。2日目の午前は、浜端准教授から「臨地実習における教育支援方法」、清水講師から「臨地実習指導の実際～教員の立場から～」、附属病院の荒川真由美看護師（7階A病棟）及びとちぎ子ども医療センターの早乙女朋子看護師（4階A病棟）から、「臨地実習指導の実際～臨地実習指導者の立場から～」の講義がありました。午後は、3年生を対象とした成人期看護臨床実習における事例について演習（個人ワーク、グループワークそしてグループ発表と全体討議）を行いました。半澤臨地実習指導研修委員長による2日間の研修のまとめに続き、春山学部長より全日程の研修を終えた75名に修了証書が授与されました。

参加者はすべてのプログラムに熱心に取り組み、互いの交流を深めることができました。受講後のアンケートでは、本研修会の企画・運営について貴重なご意見をいただきました。本学部学生への教育支援の充実を図るため、次年度以降の本事業の企画運営に反映させていきたいと思ひます。



(ワールド・カフェの風景)



(1日目発表の風景)

受講者所属施設及び参加者数 (75名)

自治医科大学附属病院	63名	とちぎ子ども医療センター	8名	さいたま医療センター	2名
とちぎ訪問看護ステーションたかねざわ	1名	訪問看護ステーション	カトレア	1名	

お知らせ

総合防災避難訓練（大災害時傷病者受入れ訓練）が実施されました さいたま・管理課

9月6日(金)、さいたま医療センターでは初めてとなる「大災害時に傷病者を多数受け入れる訓練」が行われました。例年実施している「地震・火災訓練」と異なるため、外部講師6名を招き、9時から17時まで実施されました。

百村センター長の開会挨拶をはじめに、講師による「災害医学概論」の講義、トリアージタグ記載練習を行ったあと、受講者46名は5グループに分かれ、「通信」・「広域搬送」・「治療」・「トリアージ」・「災害対策本部」のスキル訓練を各講師より受けました。

その後、正面玄関・中央ホールに移動し、「トリアージ」・「災害対策本部」・「赤ブース」・「黄ブース」の4グループに分かれて実動訓練を行い、各グループが全てのセクションにおいてそれぞれの役割を演習しました。また、この実動訓練の様子は職員の他に、外来患者や面会者も多数見学されていました。

実動訓練の流れは、事前に講師から指導を受けた傷病者役30名が正面玄関に設置したトリアージポストで救護所「赤（緊急治療）」及び「黄（準緊急治療）」に振り分けられ治療を行い、随時災害対策本部へ報告するというものでした。

訓練を受けた受講者の方々の感想は、「1日の訓練だったが短く感じられた。」「楽しく覚えることのできた訓練だった。」等、好評でした。

今回の訓練にあたり、平日の1日間と長丁場であるにもかかわらず受講した災害リンクドクター・ナース・スタッフ、傷病者役の事務職員、また、平日午後の実動訓練を行うにあたり、外来医長、外来師長、医事課、他多くの方々のご協力をいただきました。無事訓練が成功に終わったことに対し、お礼を申し上げます。



スキル訓練（広域搬送）



実動訓練（トリアージ）



実動訓練（救護所「赤」「黄」）



実動訓練（災害対策本部）

お知らせ

考課者研修が開催されました

人事課

考課者研修は本学の考課制度を理解し、適正な人事管理を行うために、職員の業績及び能力、姿勢、実績を公正に評価するための考課者相互間の統一を図ること、また、考課者の指導育成能力を開発し、リーダーシップを強化することを目的として、医療技術職員（副技師長以上）、看護職員（看護師長以上）、事務職員（課長補佐以上）を対象に開催されました。

研修内容は、勤務評定の必要な背景、勤務評定の基本等についての講義の後、勤務評定に係る個人演習、グループ討議が行われました。

研修は、9月20日に開催し、医療技術職員3名、看護職員1名、事務職員5名の合計9名が受講されました。

今回の研修により、一層適正な勤務評定が行なわれるものと期待されます。



お知らせ

教職員ソフトボール大会が開催されました

人事課

9月7日(土)、本学グラウンドにおいて、教職員ソフトボール大会が開催されました。大会当日は前日までの厳しい残暑とは打って変わって曇り空の中、各試合場で熱戦が繰り広げられました。

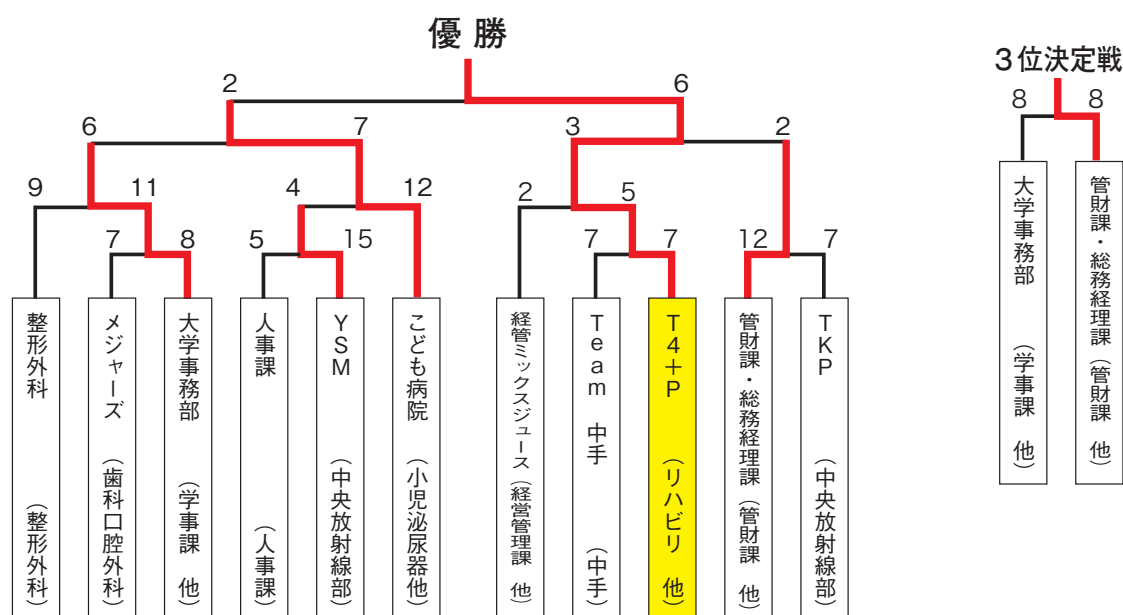
参加チームは11チームと昨年とほぼ同数のチームが参加し活況を呈しました。

試合は、好プレーあり、珍プレーありと各会場で盛り上がりを見せるなか、決勝戦は互いに接戦を勝ち抜いてきた「こども病院（小児泌尿器他）」チームと「T4+P（リハビリ他）」チームとの対戦となりました。結果は、投打のかみ合った「T4+P（リハビリ他）」チームが6対2で、みごと優勝を果たしました。

職種の垣根を超え親睦を深める機会となり、無事に閉会式を迎え、平成25年度の大会が終了しました。

なお、大会開催に際し、学友会から、ご厚意によりスポーツドリンク等をご提供いただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

平成25年度学内対抗ソフトボール大会



お知らせ

第56回東医体夏季部門・総合成績結果報告

学生課

第56回東日本医科学学生総合体育大会（夏季部門）が、7月31日から8月17日まで、弘前大学医学部、札幌医科大学、北海道大学医学部および旭川医科大学の主管で行われ、本学からは医学部生延べ420名が22種目の競技に参加しました。東日本の医系大学36校が参加し、本学の成績は下記のとおりです。

最後に各競技に監督として参加していただいた教職員の方に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

自治医科大学 第11位 30.0点

順位	大学名	東医体総合得点
第1位	慶應義塾大学	61.5
第2位	筑波大学	51.5
第3位	東北大学	50.0
	⋮	
第10位	福島県立医科大学	32.0
第11位	自治医科大学	30.0
第12位	千葉大学	28.5
	⋮	

[種目別上位入賞]

(優勝) バドミントン (男子シングル)、ハンドボール、剣道 (男子団体)

(2位) 剣道 (男子個人)

(3位) 空手道 (男子団体組手、女子団体組手)

《資料》過去8年の夏季冬季総合成績一覧

開催	年度	順位	得点	開催	年度	順位	得点
第48回	H17	3位	48.50点	第52回	H21	7位	30.00点
第49回	H18	13位	28.50点	第53回	H22	4位	44.00点
第50回	H19	3位	49.00点	第54回	H23	8位	32.50点
第51回	H20	14位	25.50点	第55回	H24	4位	35.00点

お知らせ

各種募金活動へのご理解とご協力をお願いします

総務経理課

教職員の皆様におかれましては、各種募金活動に対し日頃からご理解ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、このたび公益財団法人栃木県保健衛生事業団から以下のとおり募金の協力依頼があり、9月9日には学内Eメールにて各所属長（大学・附属病院）あて通知をいたしました。

つきましては、これらの募金活動にご理解ご協力いただける場合には、各募金を所属ごとに取りまとめのうえ、申込用紙及び募金を総務経理課秘書係（記念棟4階・内線3213）までご持参ください。詳しい資料、申込書等の請求、お問い合わせも総務経理課秘書係までお願いいたします。

(1) がん征圧募金

- 【主 体】 公益財団法人栃木県保健衛生事業団（日本対がん協会栃木県支部）
- 【趣 旨】 がんに関する正しい知識の普及と早期発見・早期治療の徹底を図る活動
- 【募金額等】 ①100円から募金することができます。
- ②募金額500円以上の方は、一口500円を目安として事業団オリジナルのピンクリボンバッジまたはピンクリボンストラップをお申込みいただくことができます。
- ＜専用の申込書は総務経理課秘書係（記念棟4階）にございます。＞
- 【締 切 日】 平成25年10月24日（木）

(2) 複十字シール募金

- 【主 体】 公益財団法人栃木県保健衛生事業団（結核予防会栃木県支部）
- 【趣 旨】 結核・肺がん等胸部の疾病の予防、根絶のための事業活動
- 【募金額等】 ①小型シール〔6面綴り〕 1枚 100円
- ②封筒組合せ〔小型シール1枚と封筒3枚〕 1組 200円
- ③大型シール〔24面綴り〕 1枚 1,000円
- ※ご希望のものをご希望枚数申し込んでください。
- ＜専用の申込書は総務経理課秘書係（記念棟4階）にございます。＞
- 【締 切 日】 平成25年10月24日（木）

新入職員紹介

かんばれ、新社会人！

質問

- ①就職前に比べて、生活や考え方等において、どんなところが変化しましたか？
- ②就職してから、心に残っているできごとは何ですか？
- ③初めての給料・ボーナスは何に遣いましたか？
- ④あなたの気分転換方法は何か？
- ⑤今後への抱負を一言お願いします。

前号に引き続き、今年度、本学に入職された方をご紹介します。アンケート形式でコメントをいただきましたが、今回は次の9名をご紹介します。

卒後臨床研修センター レジデント 小林 久也



- ①生活リズムにメリハリができました。いろいろなことに優先順位をつけて行動するようになりました。
- ②研修が始まってから、ずっと担当していた患者さんが亡くなったことです。ローテートしている科が変わった後だったので、最期を看取れなかったことが悔やまれます。
- ③特に何に遣ったということはありませんが、両親と旅行に行ければ、と考えています。
- ④休日にドライブに行くこと。同僚と飲みに行くこと。
- ⑤いつまでも「学ぶ」姿勢を忘れず、物事を積極的に吸収できればと思います。

さいたま・卒後臨床研修室 レジデント 浅野 雅世



- ①一社会の一員として、自分のしたことが患者さんの人生に大きくかわることになると自覚し、身が引き締まる思いです。
- ②消化器内科から外科へ転科となったときに、担当患者さんが退院前にわざわざ元気な姿でナースステーションへ会いに来てくれたことです。
- ③普段、電子カルテでパソコンを使うことが多いので、ブルーライト防止の眼鏡を購入しました。
- ④デパートへ行って、おいしいデザートなどを買うことです。甘いものは元気がでます。
- ⑤一步一步、患者さんに信頼される医師を目指してがんばります。

中央放射線部 診療放射線技師 吉村 友里



- ①就職前に比べ、より言葉づかいや身だしなみに気をつかうようになりました。
- ②初めての患者さんの撮影で、照射ボタンを押した瞬間がとても心に残っています。また、検査後に患者さんから「ありがとう」と言われたことです。
- ③趣味の舞台観劇や、両親へのプレゼントに遣いました。
- ④音楽を聞くことや、スポーツ観戦に行くことです。
- ⑤まだまだ未熟者ですが、患者さんから信頼される技師になれるよう頑張ります。

歯科口腔外科 歯科衛生士 上村 真純



- ①規則正しい生活を心がけ、栄養をしっかりと摂ることが大切だと思えるようになりました。
- ②病棟へ口腔ケアに行った時、患者様から挨拶をしてもらったことです。
- ③実家にはまだ帰っていないので、帰った際に食事をごちそうしたいと思っています。
- ④DVDを見て漫画を読む。
- ⑤吸収できることを吸収し、興味のある分野ややりたいことを明確にしたいです。

さいたま・リハビリテーション部 理学療法士 舘野 純子



- ①就職をしてから、ひとり暮らしをはじめました。家事をすることが日課になり、規則正しい生活を送れるようになりました。
- ②担当した患者さんが退院後、元気にリハビリテーション室まで会いに来てくれたことです。
- ③両親と自分にプレゼントを贈りました。
- ④友人と会って、おいしいものを食べることです。
- ⑤理学療法士として技術や知識の向上を追求し、自分らしく日々精進していきます。いつか、今まで支えていただいた方々に誇れる仕事がしたいです。

看護部（8階B病棟） 看護師 富永 千尋



- ①今までは、生活上疑問が生じた際「この歳でこんなことを聞いたら恥ずかしいかな」と他者に質問することに躊躇してしまうこともありましたが、それがなくなりました。患者さんに関わらせていただく中で、自分のそのプライドが患者さんの安全を脅かすと考えたためです。今は自分に少しでも疑問や不安が生じた場合は、必ず先輩に相談して解決するようになりました。
- ②病棟での業務2日目。廊下にいると「富永～頑張ってるか？」と叫ぶ声が聞こえました。振り返ると前日先輩がケアをする際に見学させていただいた患者さんでした。私の名前を覚えてくださっていたことが何より嬉しく、慣れない業務で不安がいっぱいだった私の心はその患者さんの一言で一気にほぐれたことを今でも鮮明に覚えています。
- ③初めて頂いたお給料は、両親が新しくできた歌舞伎座に行ってみたいと話していたことを思い出し、歌舞伎座の鑑賞チケットをプレゼントしました。また、祖父母と一緒に買い物に行き、靴と洋服をプレゼントしました。残りは生活費…。貯金はこれから頑張ります。
- ④自分へのご褒美に、定期的に温泉に行って身体の疲れを癒しています。それから大好きなお酒を嗜むことです。
- ⑤これからも先輩方に助言をいただきながら多くのことを積極的に経験し、各々の患者さんに適した看護を自信を持って提供できるよう努力していきたいと思います。また、何年経っても患者さんの立場で物事を考える気持ちを忘れないようにしたいです。

さいたま・看護部（4階B病棟） 助産師 平田 泰子



- ①学生の頃とは異なり、社会人として助産師としての責任感を強く感じるようになりました。金銭管理、健康管理等の自己管理にも常に気を配り、生活するようになったと思います。
- ②妊娠期から関わっていた方が出産し、退院される時に、ベビーを連れ私の所に来てくださり「毎日、一生懸命に働いている姿に元気をたくさんもらっていました。」と言ってくださったことです。知識、技術不足で無力感を感じるばかりだったため、褥婦さんのこの一言で救われ、もっと頑張ろうという思いになりました。
- ③初めての給料は、ずっと私のことを支え応援してくれていた両親、祖父母に感謝の思いを込め、プレゼントを送りました。ボーナスでは、自分にカメラを買いました。これから、そのカメラでたくさんさんの思い出を残していく予定です。
- ④同期や学生時代の友達とおいしいご飯を食べながら、おしゃべりをする事です。友達からたくさんパワーをもらっています。また、山登りやジョギングが好きなので、休日は自分の趣味を楽しみながら、リフレッシュしています。
- ⑤自分に足りない技術、知識を一つ一つ確実に身に付けていけるよう、日々努力をし続けていこうと思います。そして、妊産褥婦さん、新生児のことを第一に考え、全力でサポートしていきます。

さいたま・看護部（5階A病棟） 看護師 石川 香澄



- ①社会人として、まずは早寝早起きが習慣となりました。最近では夜勤も始まり、生活が不規則となってきたため、体調管理の必要性を実感しています。そのため、心身ともに健康であるためにワークライフバランスを大切に、時間を有効に使えるよう意識するようになりました。
- ②患者さんからの「ありがとう」の言葉は素直に嬉しいです。歩行が出来なかったり、発語のなかった患者さんが元気に退院される姿を見て、看護師としてのやりがいを感じるとともに、毎日の励みになっています。
- ③初めての給料・ボーナスは今後、海外など遠方への旅行を考えているため、貯蓄中です。
- ④仕事で悩んだり、失敗した時には同期や友人とごはんを食べにいくなどし、話すことでリフレッシュしています。同じ悩みや不安をかかえる同期や友人の存在は自分にとって大きな支えとなっています。
- ⑤患者さんの心の支えとなるよう、気持ちに寄り添った看護を実践していきたいです。

経営管理課 主事 大坪 史明



- ①仕事を通して多くの出会いがあり、一つ一つの御縁を大切にしたいと思うようになりました。また、笑顔や挨拶など、基本的なことの大切さに改めて気付きました。
- ②業務中、至らない点があり、お叱りを受けてしまったことです。入職以降、悔しい思いをすることもあります。達成感や喜びを感じられる機会を少しでも増やしていけるよう、努力します。
- ③後になっても残るのが欲しいと思い、オーダーグローブを購入しました。大切に長く使い続けたいと思います。
- ④よく整体に行きます。体の疲れがとれると、自然と気持ちも前向きになり、「また明日から頑張ろう！」と思えます。
- ⑤丁寧で確実な仕事を心がけたいと思います。ほどよい緊張感を常に持ち、初心を忘れず業務にあたります。

新入職員全員をご紹介したいところですが、紙面の都合上、各職種から数名にコメントをいただきました。お忙しい中ご協力いただき、ありがとうございました。

随 感



今月の随感は、4月に開設された臨床研究支援センター長の箕田清次教授です。

6月に同センターの開設記念講演会が行われましたが、開設の理由やどのようなことを行っているところなのか、また、組織はどうなっているのかなど、センターについての基本情報を分かりやすくお話しいただきました。

臨床研究支援センターのご紹介

臨床研究支援センター長

箕 田 清 次

今年の4月、永井学長のお考えにもとづき臨床研究支援センターが開設されました。センターの英語名をJichi Medical University Support Center for Clinical Investigationとし、略してJ-SENSATIONとしました。センセーショナルなことをやりたいとのことから考え出した名称です。場所は医学部教育・研究棟3階の研究支援課の隣にあります。

医学を進歩させるためには基礎研究と同時に臨床研究やその橋渡し研究が重要であることは疑う余地はありません。これまで大学の研究者は基礎研究に力を入れてきたと言って良いでしょう。基礎研究の方が臨床研究より短時間で仕上がることが多く、データがきれいで論文の数も増やすことができ、したがってfast trackにも乗れるということが挙げられます。しかし、基礎研究が真に人びとの役に立つには臨床研究においてそれが証明される必要があります。

一方、臨床研究を企画するには大きなハードルがいくつもあります。1) まず多くの症例数を必要とする場合が多く、一施設だけでは実施が困難なことが多いこと。2) しっかりとした結果を出すためのプロトコルをどのように作成すれば良いのか慣れていないこと。3) データの適正な管理や統計解析の問題。4) 論文作成そのもの。特に2)～3)を克服するには多くのエネルギーが必要で有り、臨床研究が進まない原因となっています。

多くの診療科は製薬企業が行っている新薬開発のための臨床研究（治験）には参加しています。それは上記の1)～4)に直接かわらないことから参加する障壁が低いことが挙げられます。本来は医師主導で行われたはずのカルシウム拮抗薬を使用した臨床研究が、実は製薬企業関係者がそのデータ管理や統計解析にかかわり、データの改竄さえ疑われている事例がありました。この臨床研究は5つの大学で実施され、一流雑誌に掲載された論文のうち2大学からのものは撤回されました。なぜこのような事態になったのでしょうか。それは、臨床研究がどのようなものか研究を行っていた臨床医がよく知らなかったことによると思われます。

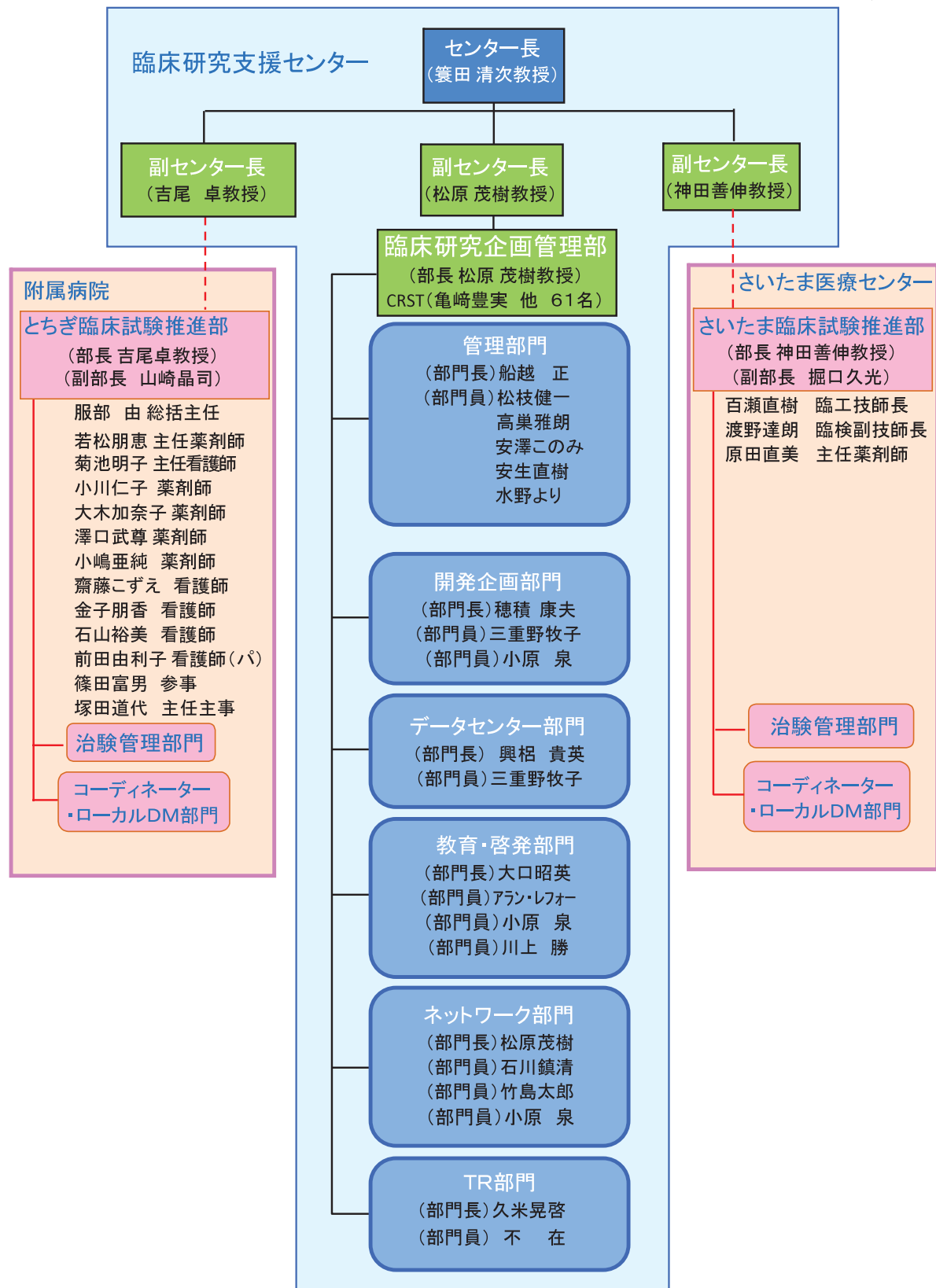
自治医大で行われる臨床研究において同じ轍を踏まないようにすること、また臨床研究をより推進するために学長直属の組織として臨床研究支援センターが開設されました。臨床研究支援センターは北里大学や東京大学を初めいくつもの大学で設置されていますが、それらは附属病院部門として置かれています。一方、自治医大の場合は大学の組織となっているのが特徴です。組織イメージ図のように3つの柱からなっています。まず、とちぎ臨床試験推進部とさいたま臨床試験推進部が左右の柱となります。以前は臨床試験センターと呼ばれていた部門がこの臨床研究支援センターに含まれるようになりました。この部門は製薬企業が行っている新薬開発のための臨床研究（治験）を推進する部門でした。今後も治験を主たる業務とはしますが、将来的には医師主導の臨床研究も推進する部門となります。この部門の部長はとちぎ、さいたまそれぞれ 吉尾 卓 臨床研究支援センター副センター長、神田 善伸 臨床研究支援センター副センター長が兼務します。さらに臨床研究支援センターの目玉としまして 松原茂樹 副センター長が兼務する臨床研究企画管理部が挙げられます。この企画管理部は管理部門、開発企画部門、データセンター部門、教育啓発部門、ネットワーク部門、およびTR部門の6つの部門からできています。TR部門とは translational research部門の略で、久米晃啓 部門長が担当します。管理部門は研究支援課が兼務し、主に事務的業務を所掌とします。開発企画部門は 穂積康夫 部門長が担当し、プロトコル作成などに関する助言を行います。データセンター部門は 興梠貴英 部門長が担当し、データの管理や統計解析に関して相談にのります。教育啓発部門は 大口昭英 部門長が担当し、臨床研究支援センターが行う講演会や論文作成その他もろもろの相談にのります。ネットワーク部門は 松原茂樹 副センター長が兼務しますが、主に卒業生とのネットワーク作りを行います。

自治医大の臨床研究支援センターの特徴の一つとしてCRSTという組織が挙げられます。このCRSTは以前から存在しておりましたが、今回、臨床研究企画管理部の中にも位置づけることにしました。47都道府県で活躍している自治医大卒業生が忙しい日常臨床の合間をぬって論文を作成することは非常に困難な作業です。これをサポートし英文の論文を発表するために自治医大には61名にもおよぶ研究協力者が学内にいます。すでに何編もの英文論文を発表しています。本来は卒業生支援のための組織でしたが、学内の研究者に対しても門戸を開いて論文作成の支援をすることにしました。研究指導者（あるいは所属長）の許可を得た後、松原茂樹 副センター長にご連絡ください。61名という多くの研究協力者の中から、研究の内容などから適任者を選出し支援を開始します。

10年近く先を進んでいる北里大学と東京大学に見学に行き、その差を実感しました。良いところを早く取り入れて追いつきたいと思います。現在の臨床研究支援センターの活動の一つとして学内で講演会を開いています。すでに臨床研究に関する厚労行政に関すること、臨床研究のプロトコルから統計処理まで（神田善伸副センター長）、知財管理に関すること、医師主導の治験を行う際のICH-GCPに準じたプロトコル作成に関すること、産学共同研究へ向けての講演会、また臨床研究に関する倫理問題に関する講演会などを企画していますので、多くの研究者に出席していただきたいと思います。臨床研究支援センターは設立されたばかりの組織でまだ専任の教職員がおりません。全て兼務で行われていることから、十分な活動ができているとは言えませんが、なるべく早く学内研究者に役立つような組織に仕上げたいと思います。

臨床研究支援センター組織イメージ図

平成25年6月1日現在



ご結婚おめでとうございます

呼吸器外科学

中野 智之さん 8/7

小児科

中野 祐子さん (旧姓・谷口) 8/7

さいたま・看護部 (6階東病棟)

橋本 佳代さん (旧姓・星野) 8/20

さいたま・看護部 (3階A病棟)

小林布未子さん (旧姓・石川) 8/26

さいたま・看護部 (中央手術部)

岡田 綾子さん (旧姓・栗田) 8/29

さいたま・看護部 (5階西病棟)

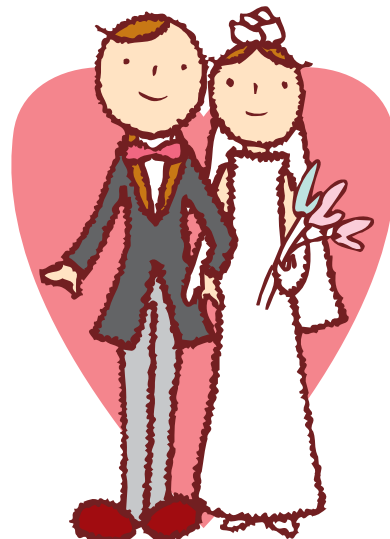
大山 彩さん (旧姓・高橋) 8/31

看護部 (第1外来)

佐久間法子さん (旧姓・日向野) 9/1

看護部 (透析部)

齊藤 美樹さん (旧姓・横嶋) 9/14



お誕生おめでとうございます

看護部 (CCU)、看護部 (中央手術部)

倉井 英行さん

倉井沙緒梨さん ^{なな}捺風ちゃん (女) 8/19

看護部 (8階南病棟)

寺澤 皇江さん ^{ゆうき}侑来ちゃん (男) 8/25

小児手術・集中治療部

中村 文人さん ^{たくと}拓人ちゃん (男) 8/28

看護部 (中央手術部)

佐藤 華佳さん ^{はな}華ちゃん (女) 9/4



患者数状況

附属病院

区分 月	外 来 患 者 数				入 院 患 者 数			
	延 数 (人)		一日平均 (人)		延 数 (人)		一日平均 (人)	
	25年	24年	25年	24年	25年	24年	25年	24年
1 月	52,762	51,592	2,777	2,715	26,820	26,873	865	867
2 月	51,739	52,407	2,723	2,758	25,727	27,276	919	941
3 月	57,444	56,905	2,872	2,645	27,920	29,081	901	910
4 月	56,173	52,214	2,675	2,611	25,990	27,858	866	929
5 月	54,507	53,923	2,725	2,696	26,624	28,123	859	907
6 月	53,918	54,513	2,696	2,596	26,562	27,728	885	924
7 月	58,838	56,545	2,674	2,693	27,850	28,116	898	907
8 月	56,319	56,974	2,560	2,477	27,655	27,132	892	875

附属さいたま医療センター

区分 月	外 来 患 者 数				入 院 患 者 数			
	延 数 (人)		一日平均 (人)		延 数 (人)		一日平均 (人)	
	25年	24年	25年	24年	25年	24年	25年	24年
1 月	26,533	25,787	1,396	1,357	13,571	12,746	438	411
2 月	26,104	27,209	1,374	1,296	12,900	12,766	461	440
3 月	28,857	29,252	1,443	1,393	14,354	13,488	463	435
4 月	28,704	26,095	1,367	1,305	14,053	13,146	469	438
5 月	28,116	26,078	1,406	1,304	14,311	13,147	462	424
6 月	27,322	27,219	1,366	1,296	14,377	13,224	479	441
7 月	30,269	27,356	1,376	1,303	14,842	13,573	479	438
8 月	27,935	28,555	1,270	1,242	14,697	13,371	474	431

協栄会 瓦版

Oct [協栄会からのお知らせ]

[只今、ディズニーランドツアー参加者募集中!!]

●「平成 26 年皇室カレンダー」先行ご予約のご案内



■壁掛式 1 部 900円(消費税込)

■化粧箱 1 個 90円(消費税込)



■卓上型 1 部 450円(消費税込)

申込締切日: 10月31日 (木) まで

別途申込書記入欄の必要事項をご記入のうえ協栄会事務室までご持参ください。



●カフェ & レストランモア

当店特製「日替りワンコイン弁当」をご提供中!! 配達希望時間帯については、お気軽にご相談ください。

当日のご注文も承っております。

皆様のご利用をスタッフ一同心よりお待ちしております。



ご提供時間 11:00~19:00 まで

◆職員カードをご利用いただけます。

◆10 個以上、まとめてご注文の方には、もちろんウーロン茶を無料サービス!!

※この他にもご予算に応じて弁当をお作りすることができます。

まずは ☎2027 までご連絡を!

[郵便局からのご案内]

◆「海外の世界遺産シリーズ 第 2 集」の発行

海外における世界遺産について理解を深めるため、世界各地の魅力的な文化遺産や自然遺産を題材としたシリーズの第 2 弾として、特殊切手を 10 月 23 日(水)に発行します。



◆「伝統工芸品シリーズ 第 2 集」の発行

私たちの生活に豊かさや潤いをもたらす伝統的工芸品について理解を深めるため、伝統的工芸品を題材としたシリーズ第 2 弾として、特殊切手を 10 月 25 日(金)に発行します。



◆詳しくは、郵便局の窓口でお確かめください。

【Jプラザ2Fにおいて、出店業者による販売を実施しておりますので、こちらも併せてご利用ください】

10月のオススメ

●スターバックス コーヒー



■商品名・価格（右写真、左から）：

『スターバックス オリガミ® スターバックス ライトノート ブレンド®』

『スターバックス オリガミ® パイクプレイス ロースト』

『スターバックス オリガミ® カフェ ペロナ®』

1箱 6袋入り (9g×6袋) 価格 ¥700 (税込み)

■発売日：2013 年10 月1 日（火）～

■取扱店舗：日本国内のスターバックス店舗（一部店舗を除く）

■商品情報：

『スターバックスオリガミ®』は、スターバックスの店舗で提供するドリップコーヒーと同じ基準で調達・焙煎したコーヒー豆を使用した、こだわりのパーソナル ドリップ®（一杯簡易抽出型）コーヒー。ラインナップはカカオや炒ったナッツのようなほのかな香ばしさのあるパイクプレイス ロースト、しっかりしたコクのある豊かなブレンドのカフェペロナ®, 軽めのコクに程よい酸味が特徴のスターバックス ライトノートブレンド®。折り紙のように折りたたんだペーパードリップでコーヒーの香りを封じ込めているため、お湯を注ぐプロセスやアロマなど、ご家庭やオフィスでコーヒーをいれるひとときを豊かな気分にさせてくれます。

●ちゃぶぜん

■ランチタイムも益々充実!! 和食ならではのお食事をご提供しております。

■広い店内でごゆっくりとおくつろぎください。

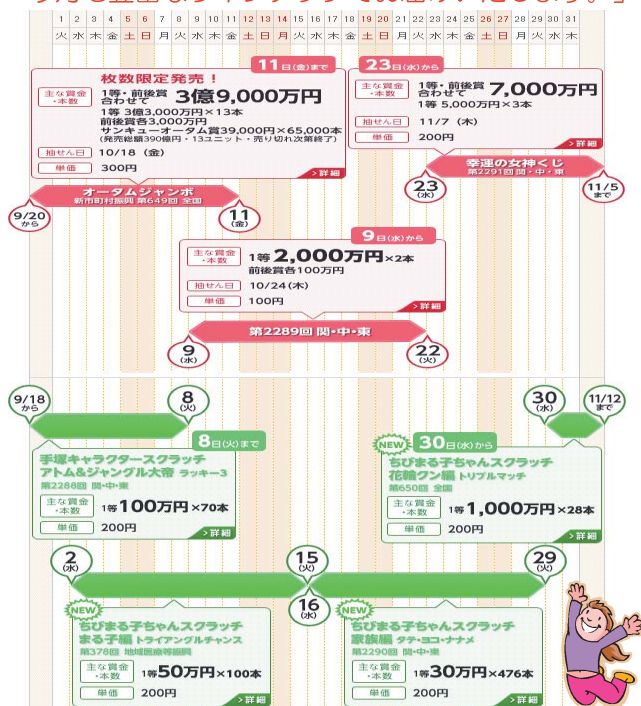
■おすすめメニューもたくさんご用意いたしました。この機会に、ぜひお召し上がりください。

皆さまのご来店をスタッフ一同心よりお待ちしております。



「10月の宝くじ販売のご案内」

「今月も豊富なラインナップでお届けいたします。」



「日光研修所 & 北軽井沢山荘」

ご家族・ご友人をお誘いあわせのうえ、ぜひお出かけくださいませ。



お問い合わせにつきましては、協栄会 内線 2023 をお願いいたします。

行列をしてまで行かぬラーメン屋

(土屋 天九)



こう言われたら、ラーメン大好き派の人達は怒るかもしれない。行列しなければ食べられないようなラーメン屋は全国どこにでも且ついくらでもあるのだから、店先でしばし並んで待つくらいのは辛抱のうちに入らない。そう主張することだろう。しかし、たかがラーメンなのである。作者の気持ちも分からない訳ではない。ラーメン程度で並ぶのも面倒である。ラーメンと行列の関係について考察すると、ラーメンが旨いから客が行列する事態になるのか、行列するほど頑張つて待つからそのラーメンも一層美味しく食べられるのか、こういう議論も必要になってくるかもしれない。いやいや、そもそも腹が減っているから大概のラーメンはいつでも旨い、美味しいのだ。こういうツツコミであつさり幕切れになることも考えられる。

思い出がただの四角になる更地

(岩名 進)

更地の前は廃屋だった、空き家だった。その前は誰かが住んでいた、生活していた。人の動きとリズムがあつた。自分の家だけではなく、他人が暮らしていた、あるいは商売していたところであつても、このような感懐になる。面白みのない四角の更地になつちまつた思い出、遠くなつてしまふだけのその思い出を今更組み立て直すとして、所詮断片的なものの寄せ集めにしかならない。すかさずかのものしか構築されない。地面に雑草が生え出しても土地は土地として変わらない。思い出は地中の深く見えないところへ滲み込んでいくのだろうか。

新聞は新鮮だから朝に読む

(小倉 慶四郎)

お昼近くになつて徐ら朝刊を手を取つて読み始めると、確かに紙面は新鮮でなくなつてはいるのかもしれない。傷みやすい魚介類や果物のように、新聞も早めに目を通すことが望ましい。時々刻々と変化する社会の動きは一人の人間のために待つてはくれない。新聞を読むことは、いつも慌ただしいものである。しかし、新聞には丁寧に書かれたものもたくさんある。それらをうっかり読み飛ばしてしまつと、記事の方が僕のこともしっかり読んでくれと叫んでいるような気配を感じて、もう一度捲り直したりすることもある。

どの石の存在感も軽くない

(中村 まどか)

川原に行つて、無数に転がっている石の中から無造作に一つを手にしてみる。川へ放り投げる前にまじと見つめると、何かの形や人間の表情、さらに誰かの顔に似ていることに気づいたりする。そうなると石が少し重みを増したように感じてなかなか投げられなくなり、その存在感は、水に沈むだけの物体ではないものとなる。路傍の石と同じ。重いから石なのではなく、存在するから石なのである。

平均台落ちたところで発芽する

(鎌田 京子)

演技をしながらバランスをとろうと一生懸命になつてゐるのに、平均台という一本の舞台から呆気なく落ちてしまふ。平均台を時系列的に解釈してその人の人生と考へれば、落ちて何かが発芽することは案外イメージしやすいのではない。転んでもただは起きない、などと言うが、これではあまりにもあからさま過ぎて鼻白む。こういう句で表現すると、失敗や挫折にも何か趣が出てくるというものである。

「引用句はすべて「川柳展望」(No.154・2013夏／大阪)から」(文&絵 三上博史&長江一彦)

編集委員会より

読者の皆様の声をお聞かせください！

学内広報編集委員会では、より良い広報誌作りのために、読者の皆様からのご意見やご提案を募集しています。

掲載された記事に対するご感想、今後お読みになりたい記事のご要望、「随感」や「教室・職場案内」に登場してほしい執筆者やテーマのご推薦などもお待ちしております。

方法は、次のいずれでも結構です（匿名可）。より身近で有用な「学内広報」作りに、是非、皆様もご参加ください。

Tel：内線 3431

外線 0285-58-7026

Fax：0285-44-8169

E-mail：gakunaikouhou@jichi.ac.jp

mail form：本学HP内に学内広報編集委員会
あてmail formを設置しましたので、
ご意見投函にご利用ください。

本学HP→学内向け→企画広報課

〔担当：企画広報課（高巢）〕

附属病院の理念・基本方針

〔理念〕

- 1 患者中心の医療
- 2 安全で質の高い医療
- 3 地域に開かれた病院
- 4 地域医療に貢献する医療人の育成

〔基本方針〕

- 1 患者の皆様の立場に立った人間味豊かな医療を提供し、情報公開を積極的に推進します。
- 2 患者の皆様に、安全で、かつ、根拠に基づく質の高いチーム医療を提供します。
- 3 地域の医療機関との連携を深め、高度で先進的な医療を提供します。
- 4 地域医療に気概と情熱を持ち、全人的な医療を実践する医療人を育成します。

附属さいたま医療センターの理念・基本方針

〔理念〕

- 1 患者中心の医療
- 2 安全で質の高い医療
- 3 地域に根ざした医療
- 4 心豊かな医療人の育成

〔基本方針〕

- 1 患者の皆様を尊重し、開かれた安心できる医療を提供します。
- 2 チーム医療を推進し、安全で質の高い医療を提供します。
- 3 地域との連携を深め、基幹病院としての役割を果たします。
- 4 地域医療に貢献する医療人を育成します。

記事募集のお知らせ

「お知らせ」、「随感」、「教室・職場案内」など、学内広報掲載記事を随時募集しています。写真や絵の投稿も歓迎します。

通常の「お知らせ」記事は、原則として

- ・毎月25日締切
- ・翌月10日付け発行号に掲載

となります。

詳しくは、企画広報課（内線：3431）までお問合せください。

編集後記

実りの秋。食欲の秋。秋刀魚が美味しい季節がやってきました。「庶民の味方」が今年は、水揚げが遅れたため高値が続いています。不漁となった原因は、猛暑による海水温の上昇ともいわれています。異常気象には困ったものですね。

本号が発行される頃には、お財布にやさしい状況になっていることを祈るばかりです。（Y's）

